

第2回国際原子力科学オリンピック 日本代表選手として

UWC Adriatic 1年

佐々木 柚榎

自己紹介

- UWC Adriatic というイタリアにある
全寮制インターナショナルスクールに在学中
(大会参加当時は大阪府立北野高校2年)
- 科学（特に物理）に興味があり、いろいろなプログラムに
参加してきた
(加速キッチン、阪大SEEDS、数理の翼、市民公開講座)
- 科学を通じた国際連携にも興味がある

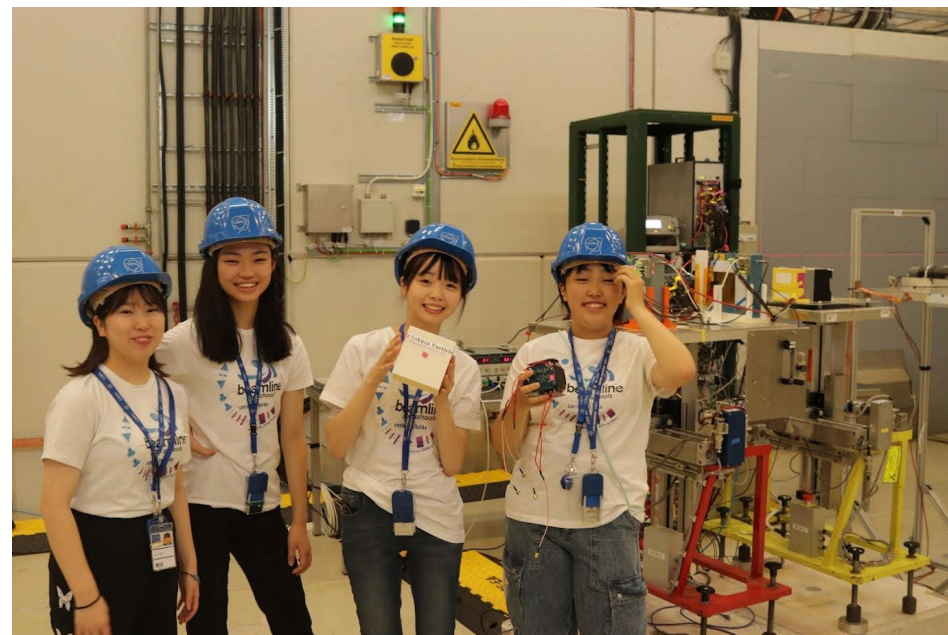
原子力科学に興味を持ったきっかけ

- ・小学生の時から科学、特に宇宙が好きだった
- ・本を読んで、素粒子や宇宙の成り立ちに興味を持った
- ・中1に加速キッチンで宇宙線・放射線についての探究活動を始めた



INSO前にしてきたこと

- ・ 加速キッチンでの研究
太陽フレアと宇宙線到来頻度の関係
- ・ SEEDSでの研究
シンチレータと汎用カメラを用いたガンマ線観測
- ・ Sakura Particles
小型二次元検出機の開発と評価
Beamline for Schoolsに参加し、
最優秀 3 チームの一つとして
CERNで実験を行う



INSO参加を決めた理由

- ・ 探究活動を進めるうちに放射線や原子核、素粒子についてもっと知りたいと思うようになった
- ・ INSOについて加速キッチンで聞き、ちょうど自分が学んでみたい内容だったため、参加することにした
- ・ 科学の現場における国際協力にも興味があるため、国際的かつ科学に関する大会に心惹かれた

INSOで得たもの ～準備編～

- ・ 放射線や原子核、原子炉、核融合についての知識
- ・ 原子力科学の応用範囲の広さを知った
（がん治療や蚊が媒介する病気の対策）
- ・ 学校であまり解かない形の問題の面白さを知った

INSOで得たもの ～合宿編～

- ・ 日本チームのつながり！
- ・ JAEAの施設見学で実際にどんな設備で研究が行われているのか学べた



選手から見たINSO本大会

- ←到着した日に全ての電子機器を回収
マレーシア訛りの英語に苦戦
お弁当に苦戦（その後も食事はかなり辛い）
- ←長時間の実技試験だが遅れて始まる……
- ←一日中自由 勉強したり、友達と雑談したり
- ←長時間の理論試験（今度は時間通り）
昼休憩がない代わりに、菓子パンが配られる
- ←電子機器が返される 旅行で色々な人と話す
- ←マレーシアにいる専門家と話す

INSOで得たもの ～大会編～

- ・ 他チーム、ルームメイトとのつながり
（今もインスタでシリアチームの人とやりとりする）
- ・ マレーシア、他国との文化的差異を学ぶ
（時間通りに始まらない、英語力が大事だと考えられている）
- ・ やり抜く力
（長丁場の試験、電子機器が一切使えない、周りに大人がいない、訛りの強い英語……）

INSOで得たもの ～総括～

- ・ 原子力科学に対する理解
- ・ 人とのつながり
- ・ 国際的な視野
- ・ やり抜く力



謝辞

INSOに参加すると決め、準備し、国内予選、強化合宿、本大会という流れの中で、たくさんのことを学びました。高校生が原子力科学について本格的に学べる、他にない特別な機会を作ってくださった国際原子力科学オリンピック日本代表選手出場支援委員会の皆様、ありがとうございました。